



工藤ヨシアさん
(合川)
大正11年生まれ

私の思う事

私が、よく昔のくだらない話をする
と、孫に「おばあちゃん、そのはなし
はカビがはえたよ」と笑われます。年
をとると振り返る事ばかりです。私は、
テレビと新聞を見るのが楽しみです。

近頃は暗いニュースばかり多くて心が
痛みます。また、戦後の移り変わりに
戸惑い、ついて行けません。家族に
囲まれ、残り少ない人生、健康に気を
つけて生きていきたいと思っております。

老人も若者も皆、安心して暮らせる
世の中になる事を願い、平成18年はよ
い年でありますよう願っております。

「友が来て 過ぎたる話
くりかえして」

「ドッコイシヨ かけ声一つ軽くなる」

私は、戊年生まれの83歳です。



戸嶋とみおさん
(阿仁水無)
大正11年生まれ

健康を第一に

新年おめでとございます。新市誕
生から後2カ月で満1周年を迎えるこ
とに成りました。

私は、これまで芸文活動の仲間とし
て阿仁部広域の方々と交流する機会が
多かったせいか合併に対して違和感が

無く同じ市民として一歩身近になった
感じで受け止めています。課題は山積
していると思いますが「三人集まれば
〇〇の知恵」に期待です。

さて、干支の戊年生まれの一人です
が、一般的に性格が温和だと云われ、
ちよつと物足りなさを感じるが家庭円
満、柔順で我慢強く「忠犬八千公」か
な？一方最後までやり抜く信念の持ち
主もいる。私は長年街頭に努力目標を
作り生活を送っているが実行が難しい。
ただ毎日10分間のラジオ体操を数十年
間続けてきたこと。これからも目標の
一つに加え健康を第一に考え、家族共々
健康な生活をと考えております。



石田 テルさん
(阿仁水無)
昭和21年生まれ

還暦を迎えて思うこと

ふと立ち止まって後を振り返ってみ
たら60年生きてきたんですね。あつと
いう間のような気がしております。

高校を卒業してからずっと働き詰め
で、子育ても義父母にお願いして外で

働いておりました。随分肩に力を入れ
突っ張って生きてきたなあと思ってお
ります。

今年から有り難いことに年金も頂け
るようですので、肩の力を抜いてゆっ
くりと進んでいきたいと思っております。
す。あれもこれもやりたい事が山のよ
うにあります。それは体も心も健康
でないと出来ない事なので、夫と共に
体には十分に気を付けて日々の生活を
大切にしていきたいと改めて思ってお
ります。

お父さん、金婚式、ダイヤモンド婚
式までもよろしく願います。合掌



岸野 福雄さん
(松山町)
昭和21年生まれ

新たな人生に向かって

戦後間もない昭和21年の戊年生まれ
木造の米内沢小学校、森吉山を仰ぐ木
造校舎の高校、当時中卒、高卒は「金
の卵」「就職列車」と言われた時期に
社会に出て40年、以来大きな病もなく、
幸いにも良き上司諸先輩に恵まれ大過

なく長年の奉職を全う出来たことに満
足感を抱いている。これも家族の理解
協力の基ゆえと感謝の心は生涯忘れま
いと念じている。

60の歳を迎える平成18年は「第二の
人生」の一步である。「敦盛」では人
生50年、今や80年という。

父母の歳を越えて数十年、尚壮年の
気を持ち続けまだまだ歩み続けたい遠
い「道程」である。

目まぐるしく変貌する時世、とりわ
け誕生間もない北秋田市の姿を想うと
き、外的には官庁集合の北欧の杜・植
樹された木々と鮮やかな芝生、静かな
森吉山ダム湖の水が心を癒すそんな市
(まち)を見てみたい。



秋元 哲郎さん
(平成町)
昭和9年生まれ

木、2 題

7回目の年男を迎えた。十二支は生
年の他に方位・時刻などに当てられた
りするが、木星の公転周期も約12年
(11、86年)である。もし木星から地
球をみたら、人類の争いもみえず羨ま
しい星にちがいない。

今年是非、清水寺の貫主に「和」
を書いてもらいたいものである。
現在は「木」に携わる人々にとつ
ては逆風の時代である。だが人類はずつ
と森との付き合いがあり、森を伐つて
は人間の居住地域を拡張してきた。
世界史の中では、森林の消失と文明の
滅びの例もある。

森林と人間の営みは深い縁があり、
木のある限り業も続くことは間違いな
い。地球規模の環境への取り組みが取
り沙汰されている現在、森林の機能が
正当に認められ評価が高まることを心
から願っている。効率主義の時世でも
見逃せないものもあるのではないかと



加賀 松藏さん
(桂 瀬)
昭和9年生まれ

激動期に育つ

今年の干支は、戊年で7回目の節目を迎
えられました。70年間の過去を振り返って
見ると、波瀾万丈など時代の変遷と共に、
走馬燈のように、過ぎ去り今更ながら感慨
深いものがあります。私が生まれた昭和9
年の年に阿仁部の交通機関として、鉄道が
大野台の動脈を越えて米内沢まで開通され

阿仁部の経済産業等急速に進展されたこと聞
きました。
更には昭和16年小学校に入学した年に、
太平洋戦争が勃発して20年の敗戦まで4年
間毎日のように戦争の教育で勉強はしま
せん。今は惜しまれてなりません。国民は敗
戦によって数知れないどん底の味を知らさ
れましたが、国民一丸となって経済復興に
努力した結果、見事に高度経済成長を成し
遂げ世界の経済大国に成り得ました。31年
には昭和の大合併の実施、47年の豪雨によ
る大水害のため森吉山ダム築造に着手さ
れ現在に至っております。

また、大館能代空港の開港など更には昨
年実現された平成の大合併による大プロジェ
クト事業ともいふべき特に市役所、総合病
院、警察、消防署庁舎等の建設について早
急な課題として、取り組むべきと強く要望
して北秋田市の益々の発展を願って抱負と
いたします。



豊村 聡さん
(内幸町)
昭和33年生まれ

5回目の成年を迎えて

北秋田市が誕生し初めての新年おめ
でとございます。

私の成年を迎えての抱負は

①「健康」く成人病予備軍の年齢で
もあり、まずは自分の健康、そ
して家族が健康であること。

②「家庭」く子どもが高校3年、中
学3年と育ち、これからが一番
の踏ん張り時か!!
③「夢」く何事にも夢をもってトラ
イする。以上3つの言葉を目標
に掲げて新年を迎えたいと思
います。

また、20代・30代はひたすら走り、
吠える「戌」であったが、新年からは、
忠犬八千公のように賢く、また時には
吠える事も忘れない「戌」になりたい
と思います。

私的な事ばかりの抱負となりました
が、北秋田市の皆さんも「健康で明る
い家庭を築き、夢に向かって暮らせる」
ことを心より念願しております。



小笠原 聡さん
(増 沢)
昭和33年生まれ

「当たり前前」の「実践」

確か24歳の時にも、生まれ年の抱負
をある広報に寄稿した記憶がある。そ
の内容は、「生まれた年だからといっ
て、はしゃぐことなく、平常心を失わ
ず、人として当たり前前」のことができ
人間になりたい」というようなもの。

それから成年が二巡り。平常心もさる
ことながら、「人として当たり前前」のこ
と」とはどういうことなのかと最近思
う。一般的な常識や良識でさえ人によつ
て微妙に違う。まして、人としての「当
たり前」は千人十色。自分で当たり前
だと思つてやったことが批判されたり、
反対に他人の当たり前前が理解できなかつ
たり。

10人で当たり前前をやるうとし
たら大変な努力を要する。若かりし頃
の未熟な抱負であったとは思いますが、し
かし、いまだに自分の言葉に責任を持
つという当たり前前のことさえできない
でいると、つくづく感じるこの頃であ
る。